

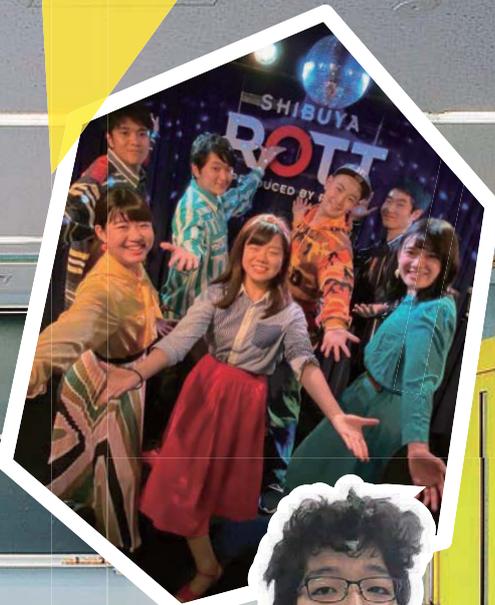
夢 広 場 Vol.44

ゆめひろば



忘れるものか、

この青春を





新春の集いに会員夫妻が司会

今年の1月13日に
行われた校友会「新春の集い」は
新宿キャンパス改装中の都合により、八王子
キャンパスにおいての開催となりました。
初の八王子開催となった今回、ソーラーカー
活動報告会から始まり、合唱、演奏、ビンゴ
大会など大いに盛り上がりました。

ところで今回司会役をご快諾頂いた会員をご紹
介したいと思います。小川湊太さん、小川友里加
(旧姓 深瀬) さんです。
もうお気づきになったかと思いますが、お二人は
ご夫婦です。

きっかけは6年前にさかのぼり、同窓会クラス
委員を募集した時のことです。
お二人は同窓会に参加し始めて精力的に活動をし
ている中で出会いがあったようです。

それから数年の交際を経て2019年に入籍、年末には
結婚式も挙行されました。
お互い会員そして卒業生同士、結婚式の会場が工学院色に染まっ
てしまいました(笑)

今後も活動を続けてくださるとの事で、非常に頼もしい限りです。
仕事も生活も大変だとは思いますが、引き続き
よろしくお願いします!



ご挨拶



工学院大学附属高等学校同窓会
会長 若林 勝司 (1968年 普通科卒)



工学院大学附属中学校・高等学校
校長 平方 邦行

イグアナから学ぶ地球環境

工学院大学附属高等学校同窓会に、ご支援、ご協力をいただきまして心から感謝申し上げます。

私の自宅には爬虫類のイグアナのペアを、ペットとして飼っています。自宅の居間に高さ180センチの温室用ゲージの中には、大きな枝木が入っていて上り下りができるようになっています。購入したときは20センチ位で、現在は150センチに成長しました。

餌は、小松菜、キュウリ、バナナ、パンなどが好物です。スーパーで買った小松菜やキュウリを与えるとペロと舐めます。しかしイグアナは食べません。次にコンビニで販売しているパンを与えますと食べないことがあります。地元のベーカリーで本日分しか製造販売していないパンを与えるのと食べるのです。

農薬や防腐剤、着色剤、甘味料が入っていると食べないことがあります。イグアナは数億年前から現在まで生き残れた爬虫類の一種です。地球環境に敏感で適応力にも優れているので生き残れているように思います。

私たち人類もイグアナから学び、何事にも少しの我慢と少しの努力を惜しまず、地球環境にやさしい生活を取り戻しをしていただきたいと思っています。

結びに、会員の皆様、御父母、教職員の皆様におかれましては校友会、PTA、同窓会と連携を保ちながら学生、生徒のために、なお一層のお力添えをお願い申し上げます。会長挨拶といたします。



“Global Education 3.0”の進化と深化

わが国の教育制度改革は、結果として大きく後退することになりました。大学入学センター試験に代わる大学入学共通テストに向けた審議では、大学入試センターが実施する2技能と外部団体が行う資格・検定4技能試験の取り扱いは2019年秋になっても不透明であり、受験生個人のスコアを志望大学に提供するシステムは更に混迷を極めていました。結果として英語4技能は仕切り直しとなり、数学と国語の記述問題も中止になったのです。

何れにしても、わが国の教育制度改革はグローバル人材を輩出することを念頭に置いていた筈ですが、変容するグローバル社会を見据えたものとは、ほど遠い方向に進んでしまいました。そんな中で「工学院の英語教育」は海外大学への入学や、学びの場で必須な4技能英語力を習得し、議論や論文などで求められる探求知はLogical thinkingやCritical thinkingによって、さらに深めていきます。

附属中高の教育は“Global Education 3.0”を目指してきました。つまり“Global immersion”を学内に構築し、授業の基本的な形は“PBL×STEAM教育”として充実させることです。また思考力が学力の中心の一つであることが認識されたことにより、論理的思考力が重要視されますが、更に“創造的思考力”を育みICTスキルを“Web3.0”まで高め、CEFRの“C1英語”を目指す英語のカリキュラムと指導法を工夫する。最後に“Global 高大接続指導”を普通にできるような教師集団になっていくことです。残念ながら日本の大学は低次思考の教育に終始しており、世界の大学では高次思考の教育が当たり前に行われていることを考えれば、高大接続指導は従来の常識では大きな間違いを犯す可能性すらあります。

ご存知のように『持続可能な開発目標(SDGs)』は、2015年9月に国連サミットで採択されたものですが、人類は15年間でこれらを達成しなければならないとして掲げたものです。これは単なる目標として定められたものではありません。世界の国や人たちが真剣に立ち向かい解決しなければ、「人類に未来はない」ことを突きつけた課題であります。つまり、未来は今の大人たちのものではないのです。それは世界中のティーンエイジャーやシングルエイジ、そして、これから誕生する人たちを含めた未来の人たちのものです。次の世代へ次々とバトンを繋いでいかなければ、人類にも地球にも未来がないことが見えてきたのです。工学院では“Global Goals”を認識するだけでなく、ゴールに向かって何ができるかを検討して従来の修学旅行を発展的に解消し“Global Project”を計画しました。2019年12月に高校2年生が沖縄・タイ・カンボジア・アメリカで、それぞれの目標を実践してきました。“Global Goals”を達成するには、世界で共有する新しい「教育システム」と「学び」を築くことが必要になると考えます。2020年に工学院は新たなグローバル教育に挑戦します。

末筆になりましたが、工学院大学附属高等学校同窓会の益々の発展と、先輩諸氏のご健勝とご活躍をお祈りいたします。

2019年度からの新たな取り組み

高校2年生グローバルプロジェクト

昨年度から“ハイブリッド文理コース・ハイブリッド文理先進コース・ハイブリッドサイエンスコース・ハイブリッドインターナショナルコース”という新しい4つのコースとなり、長年行われてきた修学旅行をグローバルプロジェクトに変えました。そして高校2年生は12月にこのグローバル・プロジェクトを実施しました。これは、国連が定めたSDGs「持続可能な開発目標」の17目標の中からそれぞれの国や地域が直面する課題を学び、その解決に貢献するための取り組みを目指すプロジェクトで、アメリカ・カンボジア・タイ・沖縄の4か所で実施しました。

アメリカ 8日間

シリコンバレーで Plug & Play や HONDA、AMD を訪問し、最先端の技術やスタートアップのエコシステムについて学びました。UCバークレーに通う大学生との交流や、社会人フォーラムを通じ、日本とアメリカの考え方や働き方の違いについても学びました。さらにサンノゼの町でSDGsの解決に向けて現地の人にインタビューを行ったり、Amazon Go や CAFE X で最先端の無人店舗を体験したり、有意義な毎日をご過ごしました。



カンボジア 7日間

プノンペンでは、キリロム工科大学を訪問。グループに分かれ、SDGs17の目標より1つに焦点をあて、解決策を探り、動画制作を行いました。現地の大学生と英語でやりとりしながらの作業は、大変勉強になったようです。シェムリアップでは、世界遺産アンコールワットにてカンボジアの歴史を学び、さらに持続可能な村作りを実践しているIKTT 伝統の森へも足を運びました。

タイ 7日間

子どもの村学園で子ども達と草木染めや木工づくりなどの職業体験や交流会、ゲームやスポーツなどさまざまな形で触れ合いました。事前学習をふまえて、夢工祭で行ったファンディング活動による寄付やプレゼントの贈呈もしました。また、



工学院大学附属高等学校
副校長 (高等学校教頭兼務)

島田 浩行



パンヤプラティープ・スクールでは中高生と日本語や英語、時にはタイ語を交えながら交流を深めました。

沖縄 5日間

カヤックやトレッキングを行いながら沖縄の自然に触れ、現地で見つけた生き物や植物が生存していくための環境づくりや、実践できることについて考えました。また、沖縄平和祈念公園でのフィールドワークや資料館、ガマの見学を通して、戦時中の様子や当時の同年代の子どもたちの生活を知り、平和をどのようにして継承していくかSDGsの解決への糸口を探ることができました。

MoG @ カンボジア 10日間

「現場の根拠」を大切に全力でカンボジアの地に足跡を残した生徒…チーム力爆発、社会起業家に100%提案採用という金字塔を打ち立てました！市場調査(実績100人)、商品開発(試行錯誤数知れず)、データ解析、価値と価値の高度な対話(ロジカルシンキング)…などにより「世界を変えに行く」という信念が異次元世界で、彼らの強力なエンジンとなりました。

※ MoG (=Mission on the Ground) : 現地の起業家が直面する社会問題の解決に挑むプロジェクト。ハイブリッドインターナショナルコースで実施します。



その他の海外研修

グローバルプロジェクト以外にも、11月に次世代の友好親善を目的に中国大使館の招聘によりインターナショナルコース1年の生徒が中国を訪問しました。

12月にはISATという工学院大学の海外協定校が持ち回りで開催している「国際シンポジウム」(台湾)に1年生の代表8人が参加しました。

10月には世界中のラウンドスクエア加盟校が集まる年次大会にインターナショナルコースの生徒が参加しました。ラウンドスクエアとは、IDEALS(Internationalism, Democracy, Environmentalism, Adventure, Leadership, Service)の精神に賛同する全世界からの私立学校が加盟する団体です。今年の国際会議はインドで開催され、約200校から1000人ほどが集まりました。

さらに2020年3月には「21世紀東アジア青少年大交流計画」JENESYS Programme(Japan-East Asia Network of Exchange for Students and Youths)という、大規模な青少年交流を通じてアジアの強固な連帯にしっかりと土台を与えるとの観点から、日本政府により進められる事業に本校の代表7人が参加します。訪問国はマレーシアです。

自立した志のある学習者を育てる取り組み

2015年に入学したハイブリット1期生が高校2年生となり、5年前から始めた学校改革がいよいよ実を結ぶ年となりました。中学も実に国際色豊かな学び舎となっています。もはや子供達を「日本人」より「世界人」と呼んだ方がいいかもしれません。

中学1年生は例年通り、1学期期末テスト終了後、Life is Tech!のプログラミングイベントに参加しました。これからの社会ではプログラミングの



思考法が必須となりますので、本校の生徒は学校生活を通じてその素養を身につけることが出来ます。中でもマイクラフトカップに出場する生徒やXYZプリンティングジャパンコンテストに参加するなど、高度なICTスキルを駆使する生徒も出て参りました。また、ICTだけではなく英語の弁論大会に参加したり、海外の英語研修に参加したり、積極的に世界への扉を叩く生徒の姿がありました。

中学2年生はプロジェクトツアーで東北地方を巡り、震災からの復興などについて学びました。「平和」というテーマを深く学びつつ、それをどのように世界の中で表現できるかを考えさせられたのではないのでしょうか。ある生徒らはシンガポールで開催されたASLC (Asian Student Leadership Conference) 2019という東南アジアの将来を担う若者が集う大会で大変目覚



工学院大学附属中学校
前教頭 高橋 一也

※2020年4月1日付で中学校教頭は奥津栄介氏になりました。



ましい活躍をしました。彼女らが提案した開発案が金賞を受賞し、工学院の生徒は世界でも圧倒的に活躍できるということを証明してきました。また、ある生徒らはマイクロソフト社と提携したプロジェクトで活躍しました。

最後に中学3年生は夏にオーストラリア研修旅行に参加しました。大きな事故などなく、授業で学んだことを十分に活かし、海外での学校生活を楽しみました。昨年度からインタークラスの生徒はアメリカのNASAの施設に研修し、寮で生活しながら世界中から集う生徒達と宇宙関連のプロジェクトに参加しています。このような海外研修からどんどんと海外で学ぶ意欲を持ち、すでに高校で3ヶ月留学、または長期の留学を計画している生徒も現れました。部活動での活躍も目覚ましく、水泳では全国大会に出場する生徒もおりました。

中学では学校と学校外の壁を意図的に取り除く努力をして参りました。学校での勉強というのは所詮温室の学びであり、実社会で応用できるものではありません。普段の学びが現実社会とどのように繋がるのか常に意識させ、子供達が将来のキャリアを具体的に思い描ける手助けをしたいと考えております。ぜひ、みなさまご協力ください！



クラス会が結ぶ同窓の輪

五十嵐 功 (1961年 機械科卒)



松本 忠史

「ブラスバンド部での思い出」

高校時代の思い出と言えば、なんと言ってもブラスバンド部のことです。当時のブラスバンド部は創設されて3年目と記憶しています。先輩後輩の区別なく、皆が友達感覚でいられたように思います。楽譜と取っ組み合いをするような毎日を過ごしましたが夏休みは合宿もあり、千葉県富浦の合宿所で1週間ほどの練習を行いました。

その合宿所はお寺の一角にありました。今、地図で見ると「長泉寺」だったと思います。海岸からそれほど遠くない場所でしたから、練習が終わると泳ぎに出かけました。最終日の夜は海の家で演奏会などを行い、楽しかった思い出があります。

また、先輩が住んでいた町へ出かけて行き、運動会をお手伝いしたこともありました。そこは毛呂山町というところで、私が今住んでいる埼玉県日高市の隣町です。その頃は「いぶん田舎だ」と思いましたが、その近くに自分が住むことになるとは思いませんでした。

昭和36 (1961) 年3月卒、機械科B組 (担任: 外山昭二先生) のクラス会は幹事の渡辺、中島、大竹各氏のご尽力により、ここ6年間は毎年開催をしております。平成30 (2018) 年は5月21日、新宿校舎に近いレストラン「音音 (おとおと)」で開催しました。卒業時は62名いましたが今回のクラス会は、体調不良や都合が付かないとの理由で欠席者が多く、参加者は13名となりました。

当日は、元気な姿で再会し喜びを分かち合いました。参加者全員の健勝を祈念し乾杯してから、各自が現況報告と懐かしい新宿時代の思い出などを語り合い、大いに盛り上がりました。その話題の一部をご紹介します。

- 新宿駅で国電 (JR) や京王線の発着する様子など、新宿校舎4階から穏やかな光景が眺められた。
- 学園競歩大会。小田急線と泉多摩川駅で下車し多摩川土手から出発し、新宿校舎を目指して競歩 (約20km) が行われた。
- 校内の「玉山食堂」 (学食) は昼食や休憩中、成長盛りの生徒に空腹を満たしてくれた。
- 体育授業は学内の他、近郊の神宮・後樂園などへ水泳、アイススケートに行ったり恋ヶ窪運動場へスクールバスに揺られながら行ったこともあった。
- アジア大会 (1958年、アジアオリンピックと云われている) では、全校生徒が国立競技場の開会式を見学。吹奏楽に合わせ各国選手が国旗を掲げて整列行進する光景は心に残り、感銘を受けた。
- 皇太子御成婚 (1959年、現在の上皇) のパレードを友人と神宮外苑で。お二人が馬車に乗る姿を見たが、馬車は瞬時に通過していった。
- 修学旅行 (1960年7月) は東北と北海道方面へ。八甲田山は雪渓が見られ、札幌では一面に綺麗な花が咲き乱れる景色に、遅い春 (遠くに来た) を感じた。連絡船「八甲田」に乗船して、乗務員の配慮で機関室を見学する機会を得た。機関室は騒音と油の匂いの中、目の前に船を推進する太いスクリーンシャフト等を見学し、その凄さに感動した。移動の列車では車中泊があった。椅子席では窮屈と、荷物を載せる網棚をハンモック代わりに数人の級友が睡眠をとっていたとき巡回中の車掌から「落下して怪我をする」と注意を受けたことも思い出になりました。
- 両親が高齢となり、現在介護をしている。
- 東京オリンピックを2回 (1964年と2020年) も観ることができるとは、何と素晴らしいことか! 人生50年、定年55歳という時代を思えば、我々は生き抜いて良くぞ頑張った。"人生100年" 時代と叫ばれている、昨今。これからは医療関係やリハビリ、家族のお世話になることが多くなる年齢となるので体調維持管理に努めて過ごそう。

来年は全員元気で揃っての再会を誓い、散会しました。今回参加できなかったクラスメートの皆さん、是非ご参加をお待ちしています。(クラス会に連絡を取りたい方は校友会事務局または高校同窓会事務局へお問合せ下さい)
なお、クラス会開催に際して同窓会から御祝金をいただきましたことに御礼申し上げます。

最近では校友会主催の見学会などに参加させて載っています。そのきっかけは、高校のクラス会でお会いした五十嵐功さんとの出会いでした。五十嵐さんは校友会代議員でもあり、川崎支部長でもあります。

今までに参加した主な見学会は、巡視船に乗る川崎クルーズや薬ミュージアム・日銀貨幣館、工学院大学地下4階の空調設備等でした。

特に印象に残ったのは工学院大学の地下にある、ボイラー設備や冷却装置でした。通常はビルの屋上などにありますが、地下に空調設備を置いて新宿高層ビル群の冷暖房を担っていることに大変驚きました。省エネになり、地球環境にも優しいことでしょう。今後も新しい発見があると思うので、健康のうちは校友会の見学会などに参加したいと思います。

以前、築地場外市場の見学に行った帰り道、築地市場から歩いて5分程のところにて工学院発祥の地があるとのことで寄ってみました。あかつき公園の入口付近に工学院の学園歌など書かれた碑がありました。築地は埋立地とのこと、当時は慶応や立教もあったようです。

同窓の友を
代表して昔の
思い出を記して
もらいました。



小林 榮二

「当時の先生のこと」

● 外山昭二先生 (社会、学級担任)

鋭い眼光とスキンヘッドから、俳優のユル・プリンナーを連想させる風貌。ドスの利いた太い声で始めたガイダンスでの初対面から圧倒され、近寄りたがたい雰囲気を感じておりました。或る時、集団予防接種のために学級全員が教室内で列を作り順番を待っていました。ところが授業中と同様に私語が多く、それ以上に傍若無人な五月蠅さだったことに担当医師がキレて、静かにするよう大喝一声! 生徒は一瞬でシーンと静まり、乱れていた列も整然と元に戻りましたが、その列の中に首を竦めた外山先生がおられました。

その時以来、先生に対して強く親近感を感じるようになりました。高校卒業後の進路については大変なご尽力を戴き、更にその後の人生にも影響するお導きを戴いた恩師です。

● 木俣滋郎先生 (英語) *

何度も授業そっちのけで、主に太平洋戦争当時の日本海軍の活躍を話しておられました。クラスの中では英語の授業に熱心な生徒もいて、先生が同じ話を始められると「その話は前回の授業で聞きました」と発言し、クラス中の冷たい視線を浴びていました。しかし、私は「スラバヤ沖海戦」を、二度聞いた記憶があります。

● 青木太夫先生 (数学・代数)

授業中、「熊さん」「ハツあん」「長屋のご隠居さん」を登場させて授業をされた記憶があります。終始、理路整然と一分の隙もなく、また淀みなく授業を進められた山口正博先生 (数学・幾何) とは対照的な雰囲気を感じたものです。

● 六城雅景先生 (理科)

六城先生からは物理の授業を受けました。かつて日本陸軍に關係する仕事に就いておられたのか、度々軍袴を身に付けて授業に臨まれていた姿を思い出します。

※注記; 木俣 滋郎氏 (きまたじろう、1930年7月14日生) は戦争・兵器・船舶史家。浜松市出身。一橋大学経済学部卒業。工学院大学附属高等学校教諭のかたわら、戦史・兵器を研究。1998年退職。



鈴木 肇



金子 列之

故郷 (ふるさと) は生まれ育つたり以前に長く住んだりした場所であり、慣れ親しんだ、あるいは忘れることができない土地です。私にとっての故郷は、その「忘れられない」土地です。

それは工学院高校の学窓から眺めた淀橋浄水場の風景です。大きなプールに砂を引き詰め、水道水を濾過していたシーンです。砂を入れ替えてプールに水を張り、また次の水槽に移動していました。そんな作業を繰り返してできた満々と水をたたえた浄水場の光景が、時間が止まって何処のどこかに見えました。何の変哲もないシーンなのに、ふっとその風景が頭の中を巡りますが、直ぐに現実の世界に戻ります。

私は中学から大学までの10年間、新宿・淀橋に通いました。淀橋浄水場は東村山に移転し、浄水場跡は埋められました。その後突然、高層ビル群に変貌してしまいました。昔の懐かしいシーンは、時間を巻き戻して見ることはできません。

私の心で記憶にある光景が、私にとっての故郷です。

自動車部の思い出

五十嵐 功 (1961年 機械科卒)



入部の動機

私の自宅付近に、工学院高校生で自動車部に在籍している先輩がいたこと。免許状を取得していると就職に有利。これからは何かの役立のではないかと考えたからです。

所有車両の紹介

自動車の所有は、日産ダットサントラックと日産ダットサンゼン及びマツダ3輪トラック。

車庫は、浄水場側で大学自動車部のとなりになりました。特にダットサントラックは、オールドカーでブレーキは機械式(自転車のハンドブレーキ)で効きが悪い。ボンネットタイプで、カバーを折り畳める旧式の車両で、オールドカーです。他の車両は情報がなく不祥です。

車の運転練習(実習)

実技練習は3台の車両に部員を乗せて、高田馬場にある未公認の練習所に持ち込みます。このコースは、工学院を初め各大学からも来て練習をしていました。練習は週に1~2回をコース練習は凡そ20分程を免許取得者が指導をしていました。当時、オートマチック車両はなく、運転練習はマニュアル車で、初めての運転は、アクセルとクラッチの踏み具合の感覚が合わず、エンスト(エンジンストップ)をしたり、変速機のギアを入れがスムーズにできず、ギャボックスからガリガリと異常音を発生させることもありました。エンジンが停止(エンスト)すると、セルモータを使わずにクランクを回転させるか、部員達が車両を押しながら(押し駆け)エンジンを始動させていました。

部活動は、夏休みを利用して、国分寺市恋ヶ窪の合宿所で、運転技術向上を目指して先輩と後輩と一緒に寝泊まりで楽しい思い出となりました。

車の整備

現在の車両は、電子式(コンピュータ制御)となっていますが、当時の車両は、機械式の構造となっています。自分たちで車両の点検整備を行いました。プラグ(点火栓)内部にカーボンが付着しているのを掻き落して、点火栓の間隙を調整します。

ディストリビューターの調整、フィルター清掃・交換、エンジンオイル交換、ブレーキの利き具合を調整などの日常点検をしました。

車両が接触事故で、車体の凹歪みを金槌で板金加工した箇所にはパテを塗り付けてから、サンドペーパーで平滑仕上げする。乾燥させて塗料を吹き付けた後、ワックス掛けをして修理完了となります。

車両検査(車検)

定期車両検査は、当時PTA会長さんが自動車の修理工場を経営していたので、ご指導を仰ぎ、ご尽力をいただき感謝しておりました。

自分たちで消耗した不良部品の交換、ベアリングにグリス注入、ブレーキシューのクラッチ等の修正や交換しました。整備が難しい箇所や車検検査箇所のチェックをして頂き、品川区にある鮫洲車検場に車両を持ち込みます。同所に卒業生した職員が、検査時に立ち会って、検査をスムーズに進めることができました。当時は車検の有効期限は2年か1年が殆どでしたが、この車両は学校教材用扱であり、車検も考慮されて、毎年有効期間を1年と認定となりました。

ある年の車検は、先輩と立会が叶わず、単独で検査を受けたところ、検査官が車両のドアのハンドルを引いたところ、ハンドルが脱落してしまい、検査官がこれは何だ? 素早く取付け作業して、再検査をした結果は、車検有効期限が10ヶ月と認定となった。

当時は、現在と比較して、交通量、スピード、事故等が少なく交通混雑の影響がなく教材として、陸運局は、大目に許可されたものと推測します。

念願の自動車運転免許取得

学校の春休み、夏休みを利用して、小金井運転試験場で受験して昭和35(1960)年3月に念願の運転免許状をGETしました。

運転免許状の返納

運転免許を取得してから今日まで59年間車を運転することができました。同時に、私は77歳の高齢者となった。報道では、高齢者ドライバーの事故が多発しており、他人様に怪我をさせるような事があってはならない。そろそろ返納を考える時期に来たと思うこの頃です。



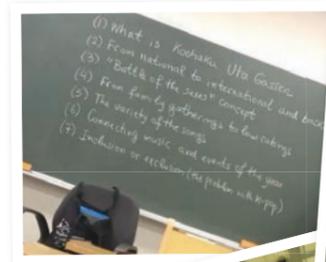
英語の楽しさ

田中敏基 (2019年 普通科卒)



高校を卒業してから、進学した大学のおかげもあり私の英語に触れる機会がととも増えました。例えば、サークルなどで留学生と話していると日本にはない感覚や文化がわかったり、逆に海外の人が知らないような日本特有の文化があることを知れたり、当たり前なのかもかもしれませんが自分の知識を広げることができてとても楽しいです。中学・高校と、このような経験はなかったので大学に入って自分の世界が広がったと思います。また、自分が受けている講義の中に「JAPANESE POP CULTURE」という講義があります。これは留学生向けらしいのですがそれは置いておいて、内容としては講義名そのまま日本文化について英語で学ぶというものです。日本文化を学ぶ授業なので一見つまらないものかとおもいきや、毎回1つの文化(例えばオタクとかカラオケとかアニメとか...)を題材にし、それを分析するということをするので自分が既に知っているもの以上の知識を得ることができる上に、すでに知っている内容を英語で聞くことによって英語に慣れることができるといったとても楽しい授業です。自分はこれを通じて英語力を磨くことができました。

最後に、今回自分は英語の楽しさという題材でこの文章を書いています。英語に限らずほかの言語でも同じことが言えると思うので、興味があればぜひ皆さんも外国語を通じて日本を再発見してみてください。絶対楽しいです。



今の私をつくってくれた工学院での経験

佐藤杏柚 (2019年 普通科卒)



私は現在、スペイン語という、ラテンアメリカ諸国やスペインで話されている言語を専門に学んでいます。今、私がこの勉強をできているのは、工学院での2つの経験のおかげだと思っています。

1つ目は高校1年生の時に東ティモールへの短期研修に参加したこと。日本とは異なり、発展途上にあつた東ティモールで、現地の高校生と交流し、そこで働く日本人の方々から話を聞いたことで、自分の視野や可能性が広がったことを実感しました。当時、自分の進路を決めかねていた私はこの研修をきっかけに、もっと色々な国を訪れて、自分がまだ知らない世界を見たいと思うようになりました。

2つ目は中学・高校の6年間にわたる吹奏楽部での活動です。友人、先輩、後輩、先生など、様々な方々の協力で、最後まで活動を続けることができました。つらい経験も少なくありませんでしたが、それ以上に、仲間と過ごした時間や、諦めずに全力で頑張った経験が今でも私にとって大切な宝物であり、今の自分の自信につながっています。

私は今の高校生に対して、勉強や部活動など何でも良いので、1つのことを全力で頑張ったという経験と、自分の知らない世界に飛び込んで視野を広げるという経験を、高校を卒業するまでにしてほしいと思っています。その2つの経験が、人との出会いをを広げ、より良い自分をつくることにつながるのではないかと思います。



がんばる 生徒特集

Minecraft x E-Sports!

Minecraft (マインクラフト・略称「マイクラ」)とは、ものづくりゲームの一種で、自由にブロックを配置し建物や家具などを作って楽しむことができます。生徒たちが使用しているのは、このMinecraftをプログラミング教育などの教材として改良した「Minecraft: Education Edition」というものです。本校では約2年前から、Minecraftを用いた授業や諸活動を行ってきました。作品を外部のコンテストや発表会に出展することもあります。

今回は、Minecraftで「E-Sports」を作ろうというコンセプトのもと様々なゲームを開発し、その取り組みを日本マイクロソフト品川本社で発表してきました。お客さんには作ったゲームを実際にプレイしてもらい、大変ご好評をいただきました。生徒たちはゲーム作成の際、「Make Code」や「Agent」と呼ばれるビジュアルプログラミングを駆使し、効率よくメイキングをしています。

このような体験を通し、生徒たちは抵抗感なくプログラミングに触れられ、オブジェクト指向を養うことができます。同時にクリエイティビティも刺激され、Minecraftが持つ教育的価値は非常に大きいと感じます。



● 田中琉久 (高校2年)

少し手間取ったものもありましたが、うまく行って良かったです。

● 星野圭祐 (高校1年)

子供だけでなく大人も楽しんでくれたのでとても達成感がありました。Make Room (学校でMinecraftを自由にプレイできる教室) だけでの活動では時間が足りないため自宅での作業が必要になり、その時はSNSでのやり取りが肝心になると感じました。バックアップの大切さも再確認しました。

大人気ゲーム「マインクラフト」
の中でe-Sportsを楽しもう!

● 山川雄大 (高校2年)

反省点もあったけど、お客さんに楽しんでもらえてよかったです。作品の規模が大きく、最初は無理だと思ったけど、やってみたら意外と形になりました。

● 秋田晴海 (高校2年)

難易度設定の調節が難しかったけど、仕組みを理解して楽しんでもらえて嬉しかったです。時間があればもう少しシステムを改良したかったです。ロマン装置はいいぞ

● 鈴木駿弘 (高校2年)

少し難易度高いし、無制限だから結構長時間止まってしまう人もいて、もう少し時間に制限をかけたほうが良かったかなと思いました。イベント自体はとても楽しかったし、お客さんにも楽しんで貰えて嬉しかったです。

● 大江華蓮 (中学2年)

大きなトラブルもなく、来てくれた人を楽しんで貰えたと思うので、とても充実していました。経験が無くてプロジェクトに参加させて頂いたことや、ゲームを作る中で、試してみたいと思ったことを試させて貰えた事など、活動を通じて様々な体験が出来たと思います。



■クラブ活動援助

高校の部活動、生徒会活動、海外留学等を手助けする活動助成費。今年度は以下のような援助を行いました。

1) 硬式野球部の西東京大会出場

2019年7月、夏の西東京大会へ応援に向いた吹奏楽部・チアリーダーの生徒たちの入場料および硬式野球部・吹奏楽部・チアリーダーのバス輸送費を援助いたしました。大勢の皆さんの声援で一つになり活躍することができました。

2) 柔道部の関東大会出場

柔道部は都大会を勝ち抜いた結果、3年連続28回目の関東大会への出場を果たしました。本会からは関東大会出場に際し、部員の遠征費用について援助いたしました。

3) 海外活動

シンガポールで開催されたAsian Student Leadership Conference(ASLC)は、アジア諸国の若者が協力して世界を変えていこうとす

る活動を支援するYouth Ambassador (YA) により実施されました。今回日本から初めてのYA参加校として、他国に比べて少人数ながら、大健闘し、起業コンテストにおいて銀賞を獲得しました。



■ホームカミング・パーティー

2019年5月18日、工学院大学八王子キャンパス食堂「ステラ」にて開催されました。このイベントは、2018年から八王子における懇親会の名称を「ホームカミング・パーティー」に変更して実施しています。これは大学主催の「ホームカミングデー」にヒントを得たものです。

懇親会のおもてなしは寿司盛合せや各種オードブル、フルーツ、プチケーキ、そしてフリードリンク・コーナーなど。お酒と美味しい料理を交えて談笑する年配OBの方々、プチ女子会で盛り上がりLINE交換する若手OGグループなど、各々に楽しいひと時を過ごしました。

そして、毎年恒例のビンゴ大会！今回は、テレビやモバイルバッテリー、カップラーメン盛り合わせなど、参加者全員が賞品をゲットできるこの企画は恩師の先生方も真剣に参加し、会場全員が一体となって楽しみました。



■社員総会・同窓会報告会・意見交換会

毎年5月の最終日曜日に開催される「社員総会」は、大学・高校・専門学校・大学院を卒業された校友とその代表代議員が前年度一年間の総括・審議・承認と新年度の予算・活動計画などについて審議承認を合わせて行う会です。

2019年5月26日(日)に新宿キャンパス3階アーバンテックホールにて第7回一般社団法人工学院大学校友会定時社員総会が開催されました。第1号議案で次期理事と次期監事の提案説明がされ、満場一致で承認されました。高校同窓会より若林会長と鄭副会長が理事に、飯塚副会長が監事に選任されました。

また、当日は「附属高等学校同窓会報告会・意見交換会」が会場を移して行われ、2018年度の会計報告と事業報告、2019年度の予算書と事業計画が発表され、出席された皆様と忌憚のない意見交換が行われました。

残念ながら2020年度の「社員総会・意見交換会」は新型コロナウイルス感染拡大防止対策により中止となりました。



■おもいでCafe

2019年9月21日、22日の週末に高校の文化祭である「夢工祭」が開催され、今回も本会OB・OG有志が企画運営する喫茶店「おもいでCafe」を初日に当たる21日出店いたしました。年に一度、母校へ集うOB・OGが集まれる場所として2011年度にスタートした「おもいでCafe」は9回目を迎えました。今後、どのように母校へ集う場所を作るのか、皆様からのアイデアも募集しております。

なお、この出店に際しては学校行事への参加許可と当該教室の貸与等のご配慮を高校からいただいています。あらためて、母校教職員の皆さまへ厚く御礼申し上げます。



■新春の集い

校友会主催による「新春の集い2020」は今回、新宿キャンパスリニューアル工事の実施により八王子キャンパスに会場を変更し、2020年1月13日に開催されました。

当日は八王子キャンパス開催にもかかわらず、各同窓会から多くの方が出席されました。懇親会の前には別会場にて本大学ソーラーカーの活動報告が行われた後、出席者は階上の懇親会場へ。

今年の司会は附属高等学校同窓会会員の小川夫妻が担当し、息の合った進行で会場を盛り上げることができました。出席者は恒例の地酒コーナーや料理

を楽しみながら合唱や演奏に聴き入り、ビンゴ大会などで大いに盛り上がりました。



夢工報 お知らせ掲示板

2019年度維持振興基金

基金者名簿

この度はご協力いただき、誠にありがとうございました

青木 喜代司	太田 正利	國分 悠哉	田中 太一郎	山田 大智
有岡 光男	岡安 彰	小林 保男	塚本 和秀	大和 勇記
飯塚 辰典	小口 俊明	坂本 康夫	辻野 周邦	吉岡 政雄
五十嵐 功	笠原 又一	篠 欣克	鄭 雄飛	米澤 善治郎
五十嵐 隆英	梶山 昇	新海 昌美	仲田 慶治	若栗 彰一
石渡 秀夫	神崎 有見	菅原 章之	橋本 信一	若林 勝司
稲葉 勇	君塚 貞夫	鈴木 肇	星野 明	和田 浩
植松 拓海	熊川 輝之	関谷 茂	宮内 保幸	
内田 栄信	倉内 重耐	高橋 庫治	三宅 捷夫	
内野 正之	黒米 富雄	滝島 正之	山口 利明	(敬称略、順不同)

◎皆様からいただいた寄付金の積み立て金額は会計報告の決算書(特別勘定)に記載しておりますのでご確認願います。

◎ゆうちょ銀行から届く振替払込票の印字が読取れない場合があります。万が一、お名前が違っておりました際は次号にて訂正いたしますのでご一報願います。

◎会計監査の関係上、年度内の募金は3月15日で区切らせていただきました。3月16日以降は次年度の募金扱いとなりますことをご了承願います。

会計報告

一般社団法人工学院大学校友会 附属高等学校同窓会

2019年度 決算書 (2019年4月1日～2020年3月31日)

収入の部			
科目	予算案	決算額	備考
会費収入	2,640,000	2,580,000	2019年度3年次該当者(258名)
広告収入	0	0	なし
懇親会参加費	0	0	なし
雑収入	0	10	利息
企画収入	40,000	7,800	おもいでCafé
前期繰越金	1,991,200	1,991,200	口座1,989,694、現金1,506
合計	4,671,200	4,579,010	

2020年度 予算書 (2020年4月1日～2021年3月31日)

収入の部			
科目	予算案		備考
会費収入	2,240,000		2020年度3年次該当者(224名)
懇親会参加費	0		なし
雑収入			利息
企画収入	40,000		おもいでCafé
前期繰越金	1,649,809		口座¥1,637,696、現金¥12,113
合計	3,929,809		

支出の部			
科目	予算案	決算額	備考
事業費	2,850,000	2,700,292	
生徒奨励費	800,000	1,036,010	同窓会クラブ賞、卒業記念品
活動助成費	700,000	700,000	クラブ活動などに対する助成
OB会援助費	50,000		
会報出版費	650,000	527,952	会報43号本冊、44号ダイジェスト版
会報郵送費	100,000	104,428	会報、総会案内送料、作業費、等 校友会へ支払い(振込手数料216円含む)
特別事業費①	20,000		
特別事業費②	500,000	303,992	懇親会、思い出カフェ運営費
寄付	30,000	27,910	思い出カフェ売上金を生徒会へ7800円寄付、校友会新春のついでに20,000円寄付(手数料110円)
管理費	420,000	192,609	
総会費	20,000	5,000	相模支部総会
会議費	100,000	50,200	役員会、会報編集会議等
通信費	200,000	115,221	NTTファイナンス、さくらインターネット
交通費	30,000	780	相模支部総会参加交通費
慶弔費	50,000	21,408	会員結婚祝い、祝電
消耗品費	20,000		
雑費	50,000	36,300	アドビソフト代
支出合計	3,320,000	2,929,201	事業費+管理費+雑費
次期繰越金	1,351,200	1,649,809	口座¥1,637,696、現金¥12,113 3月24日
合計	4,671,200	4,579,010	

支出の部			
科目	予算案		備考
事業費	2,810,000		
生徒奨励	800,000		同窓会クラブ賞、卒業記念品
活動助成費	700,000		クラブ活動などに対する助成
OB会援助費	50,000		
会報出版費	600,000		次期発注のため
会報郵送費	100,000		会報、総会案内送料、作業費、等 校友会へ支払い
特別事業費①	20,000		卒業生配布物印刷(懇親会チラシ、クラス委員案内、他)
特別事業費②	400,000		懇親会、思い出カフェ運営費
特別事業費③	100,000		全国大会参加費補助
寄付	40,000		おもいでCafé売上金を生徒会へ寄付、新春の集いへ寄付
管理費	420,000		
総会費	20,000		支部総会参加等
会議費	100,000		役員会、会報編集会議等
通信費	200,000		NTTファイナンス、さくらインターネット、案内状発送
交通費	30,000		支部総会参加等交通費
慶弔費	50,000		会員結婚祝い、祝電
消耗品費	20,000		同窓会室備品各種
雑費	50,000		
支出合計	3,280,000		事業費+管理費+雑費
次期繰越金	649,809		
合計	3,929,809		

会計監査の結果、相違ないことを認めます 2020年3月24日

岡安 彰

佐藤 勝

特別勘定

	収入	支出
前年繰越金	8,332,955	
積立金	0	
寄付金	236,747	2019年度維持振興基金¥236,747
利息	57	利息
預金の移動		
助成金		
合計	8,569,759	0

特別勘定予算

	収入	支出
前年繰越金	8,569,759	
積立金	0	
寄付金	350,000	2020年度維持振興基金
利息	50	
預金の移動		
助成金		300,000 室内練習場落成記念
合計	8,919,809	300,000 2021年3月31日予測残高8,619,809円(8,919,809円-300,000円)

「クラス委員」選任のお知らせ



同窓会ではホームカミング・パーティーの企画や同窓会報の編集などに協力していただくメンバーとして、毎年の卒業生から各クラスの代表となる「クラス委員」を選任しています。2020年3月卒業生の中からは次のメンバーが加わりました。また、クラブ活動から代表者の選任もスタートしましたので、よろしくお願いします。

【1組】 堀江 祐太 東源 実樹	【3組】 飛田 直樹 市毛 舞花	【5組】 久島 優太 畑本 参	【7組】 中尾 隼斗	【軟式野球部】 坂元 晏樹 【水泳部】 榎本 伊吹 【サッカー部】 坂本 愛斗
【2組】 坂元 晏樹 足立 喜紀	【4組】 猪野 翔大 坂本 愛斗	【6組】 横井 欧翼 安田 舞美	【8組】 後藤 颯斗 富士野 来実	【文芸同好会】 澤田 唯名 【硬式野球部】 三枝 日向

(敬称略、順不同)

同窓会役員名簿

(同窓会役員任期:2019年4月1日~2021年3月31日)

2019年4月より下記の通り、役員を選出いたしました。今後とも皆様方より温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

役職	卒業年	氏名	校友会代議員	校友会役職
会長	1968	若林勝司	○	理事
副会長	1963	鄭雄飛	○	理事・副会長
副会長	1975	内野正之	○	
副会長	1981	小川隆	○	
会計	1995	白滝聡	○	
会計	2002	雨宮啓太	○	
幹事	1964	小林保男	○	
幹事	1967	豊田純一	○	
幹事	1975	飯塚辰典	○	監事
幹事	1977	小口俊明		
幹事	1979	島田浩行	○	
幹事	1979	岸和浩		
幹事	1990	茂呂田和宏	○	

役職	卒業年	氏名	校友会代議員	校友会役職
幹事	2007	田中元樹	○	
幹事	2008	広田慶孝	○	
幹事	2008	小川友里加	○	
幹事	2009	荒井翔平		
幹事	2009	山本進	○	
幹事	2014	小川奨太		
幹事	2014	青木佑生菜		
相談役	1973	太田正利	○	
会計監査	1973	佐藤勝		
会計監査	1975	岡安彰	○	
顧問	1957	石渡秀夫		選挙管理委員
顧問	1961	三宅捷夫		
顧問	1960	五十嵐功		

※氏名敬称略・順不同。校友会代議員は校友会員全体から選挙による選任。校友会理事は代議員による互選

事業報告・事業計画

同窓会活動における2019年度事業報告、2020年度事業計画は以下の通りです。

【2019年度事業報告】

1. 生徒奨励
卒業記念品贈呈/優秀生徒表彰(同窓会クラブ賞)
2. 学園への援助
3. 生徒の諸活動への助成
クラブ活動/生徒会活動/その他諸活動
4. OB・OG会への支援
5. 広報ツールの拡充
会報第44号の発刊/SNSによる情報発信/ホームページリニューアル
6. クラス委員制度の拡充
7. 懇親会(八王子)企画の拡充
8. おもいでCafe企画の拡充
9. 同窓会意見交換会の開催
10. ホームカミングデーへの協力、参加
11. 校友会活動への協力、参加

【2020年度事業計画】

1. 生徒奨励
卒業記念品贈呈/優秀生徒表彰(同窓会クラブ賞)
2. 学園への援助
3. 生徒の諸活動への助成
クラブ活動/生徒会活動/その他諸活動
4. OB・OG会への支援
5. 広報ツールの拡充
会報第45号の発刊/SNSによる情報発信/ホームページの拡充
6. クラス委員制度の拡充
7. 懇親会(八王子)企画の拡充
8. おもいでCafe企画の拡充
9. 同窓会意見交換会の開催
10. ホームカミングデーへの協力、参加
11. 校友会活動への協力、参加

INDEX

巻頭 TOPICS 新春の集いに会員夫妻が司会

- P.1 **ごあいさつ** 同窓会会長、中学校・高等学校 校長
- P.2 **学校だより** ～高等学校・中学校の近況～ 2019年度からの新たな取り組み
自立した志のある学習者を育てる取り組み
- P.4 **OB・OG 寄稿** クラス会が結ぶ同窓の輪
- P.6 **OB・OG 寄稿** 自動車部の思い出
- P.7 **OB・OG 寄稿** 英語の楽しさ
今の私をつくってくれた工学院での経験
- P.8 **がんばる生徒特集** Minecraft × E-Sports
- P.10 **寄付・援助活動報告 その他報告** クラブ活動援助／ホームカミング・パーティー／
社員総会・同窓会報告会・意見交換会／
おもいで Cafe／新春の集い
- P.12 **夢工報（おしらせ掲示板）** 維持振興基金募金者名簿、同協力のお願い／
2019年度決算書、2020年度予算書／
「クラス委員」選任のお知らせ／同窓会役員名簿／
活動報告・活動計画

Editor

編集長



田中 元樹
2007年 普通科卒



岸 和浩
1979年 普通科卒



白滝 聡
1995年 普通科卒



荒井 翔平
2009年 普通科卒



新海 龍一
2014年 普通科卒



糸野 拓也
2016年 普通科卒



星 彩水
2017年 普通科卒



鈴木 初香
2018年 普通科卒



会報「夢広場」第44号 発行日：2020年4月1日 発行人：若林 勝司 編集責任者：内野 正之
事務局：〒163-8677 東京都新宿区西新宿1-24-2 工学院大学校友会事務局
電話：03-3342-2064 FAX：03-3342-2035 メール：info@ga-kogakuin.jp
一般社団法人工学院大学校友会 附属高等学校同窓会